

## 発話の非流暢性への学際的アプローチ

定延利之 (京都大学)  
丸山岳彦 (専修大学)  
遠藤智子 (東京大学)  
松橋瑞貴 (日本大学)  
林 良子 (神戸大学)  
モクタリ明子 (富山県立大学)

1

## 謝辞

このワークショップは、日本学術振興会の科学研究費補助金による基盤研究 ((S)20H05630, 研究代表者: 定延利之), 国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」「多世代会話コーパスに基づく話し言葉の総合的研究」の成果を含んでいます。

2

## 導入

定延利之  
(京都大学)

3

## なぜ非流暢性を考えるのか? 1/2

- 無文字言語はめずらしくない  
“Indeed, some 40% of human languages (over 2,000 in all) have never been written down.” [Crystal 2007: 17]
  - 自然習得できるのは音声言語のみ
- 人間にとって基礎的な言語は音声言語  
[Sayce 1900, Gray 1939, Hockett 1960, Potter 1975, Lyons 1981]

4

## なぜ非流暢性を考えるのか? 2/2

- 保存・運搬の可能性: 文字 > 音声
  - 人間の処理速度: 読 > 聞 = 話 > 書 [Chafe 1982]
- 音声言語は対面しての即興的なことばになりがち  
→非流暢

5

## 文献

- Chafe, Wallace L. 1982. “Integration and involvement in speaking, writing, and oral literature.” In Deborah Tannen (ed.), *Spoken and Written Language: Exploring Orality and Literacy*, pp. 35-53, Norwood, New Jersey: Ablex.
- Crystal, David. 2007. *How Language Works: How Babies Babble, Words Change Meaning, and Languages Live or Die*. New York: Avery.
- Gray, Louis H. 1939, 1950<sup>2</sup>. *Foundations of Language*. New York: The Macmillan Company.
- Hockett, Charles F. 1960. “The origin of speech.” *Scientific American*, 203, pp. 89-97.
- Lyons, John. 1981. *Language and Linguistics: An Introduction*. Cambridge: Cambridge University Press. [ジョン・ライアンズ (著), 近藤達夫 (1987訳) 『言語と言語学』, 東京: 岩波書店.]
- Potter, Simeon. 1975. *Language in the Modern World*. [Revised Edition] Westport, Conn.: Greenwood Press.
- Sayce, Archibald H. 1900. *Introduction to the Science of Language*. [4th Edition] Vol. 1. London: Keegan Paul, Trench, Trübner & Co. Ltd.

6

## 趣旨

〔第1の問い〕母語話者の発話は実は非流暢だが、第2言語学習者の非流暢性と違って目立たず気になりにくい。では母語話者の非流暢性と学習者の非流暢性はどう違っているのか？

〔第2の問い〕健常者（母語話者・学習者）の非流暢性は、言語障害者の非流暢性とどう違っているのか？

発表者らは、日本語を中心に上記2つの問いを追究し、得られた知見を言語教育や言語障害研究、さらにAIによる発話合成に活かそうとしている。成果の一部を紹介し、さらに仲間を増やしたい。

## 時間配分

10:00-10:05	導入（定延）
10:05-10:20	発表1「記述言語学の立場から」（定延）
10:20-10:35	発表2「コーパス言語学の立場から」（丸山）
10:35-10:50	発表3「会話分析の立場から」（遠藤）
10:50-11:05	発表4「言語教育の立場から」（松橋）
11:05-11:20	発表5「言語障害の立場から」（林）
11:20-11:35	発表6「音声合成の立場から」（モクタリ）
11:35-11:50	発表7「分野の共働で見えてきたこと」（全員）
11:50-12:00	総合討議